

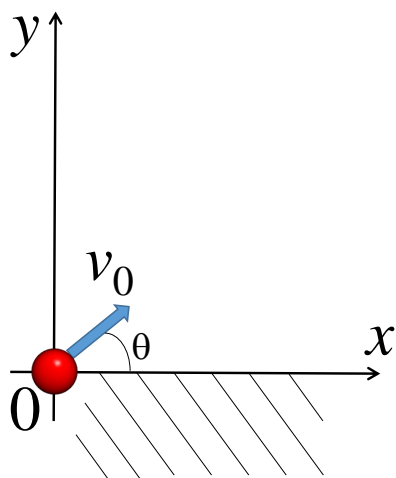
基礎力学演習 期末試験

2018年7月27日 担当：佐藤 純

問題 1 地上から角度 θ で斜めに初速度 v_0 で質量 m の物体を発射する．空気抵抗の影響は無視する．

(1-1) 物体の運動を記述するのに適切な座標軸を設定し，運動方程式を立てよ．

発射地点を原点にとり，水平方向に x 軸，鉛直上向きに y 軸をとる．物体は xy 面内を x 軸の正の方向に運動するとする．



物体に働く力ベクトルは，

$$\vec{F} = \begin{pmatrix} 0 \\ -mg \end{pmatrix}$$

である．時刻 t における物体の位置ベクトルを $\vec{r}(t) = \begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix}$ ，速度ベクトルを $\vec{v}(t) = \begin{pmatrix} v_x(t) \\ v_y(t) \end{pmatrix}$ ，加速度ベクトルを $\vec{a}(t) = \begin{pmatrix} a_x(t) \\ a_y(t) \end{pmatrix}$ ，として，運動方程式を立てると，

$$m \begin{pmatrix} a_x(t) \\ a_y(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ -mg \end{pmatrix}$$

となる．

(1-2) 運動方程式を解くことにより，発射後の物体の運動を決定せよ．

運動方程式の各成分を一回積分する．まず，

$$v_x(t) = \int a_x(t) dt = \int 0 dt = C$$

となる． $v_x(0) = v_0 \cos \theta$ より， $C = v_0 \cos \theta$ なので， $v_x(t) = v_0 \cos \theta$ ． y 成分は，

$$v_y(t) = \int a_y(t) dt = -gt + D$$

となる。 $v_y(0) = v_0 \sin \theta$ より、 $D = v_0 \sin \theta$ なので、 $v_y(t) = v_0 \sin \theta - gt$ 。 以上により、

$$\vec{v}(t) = \begin{pmatrix} v_0 \cos \theta \\ v_0 \sin \theta - gt \end{pmatrix}$$

を得る。 運動方程式の各成分をもう一回積分する。 x 成分は、

$$x(t) = \int v_x(t) dt = v_0 t \cos \theta + C$$

となる。 $x(0) = 0$ より、 $C = 0$ なので、 $x(t) = v_0 t \cos \theta$ 。 y 成分は、

$$y(t) = \int v_y(t) dt = v_0 t \sin \theta - \frac{1}{2}gt^2 + D$$

となる。 $y(0) = 0$ より、 $D = 0$ なので、 $y(t) = v_0 t \sin \theta - \frac{1}{2}gt^2$ 。 以上により、

$$\vec{r}(t) = \begin{pmatrix} v_0 t \cos \theta \\ v_0 t \sin \theta - \frac{1}{2}gt^2 \end{pmatrix}$$

を得る。

(1-3) 物体の水平到達距離を最大にする発射角度 θ を求めよ。

地上に落下する時刻を $t = T$ とすると、

$$y(T) = v_0 T \sin \theta - \frac{1}{2}gT^2 = T(2v_0 \sin \theta - gT) = 0$$

より、地上に落下する時刻は

$$T = 2v_0 \sin \theta / g$$

である。したがって、水平到達距離は

$$x(T) = v_0(2v_0 \sin \theta / g) \cos \theta = v_0^2 \sin 2\theta / g$$

である。 $\sin 2\theta$ は $2\theta = 90^\circ$ で最大となるので、そのときの θ は $\theta = 45^\circ$

問題 2 質量 m の物体が力を受けながら xy 面内を運動している。

時刻 t に物体は位置 $\vec{r} = \begin{pmatrix} a \cos \omega t \\ b \sin \omega t \\ 0 \end{pmatrix}$ にあるとする。

(2-1) 時刻 t における物体の運動量 \vec{P} を求めよ。

$$\vec{P} = m\vec{v} = m \frac{d}{dt} \begin{pmatrix} a \cos \omega t \\ b \sin \omega t \\ 0 \end{pmatrix} = m\omega \begin{pmatrix} -a \sin \omega t \\ b \cos \omega t \\ 0 \end{pmatrix}$$

(2-2) 時刻 t における物体の (原点まわりの) 角運動量 \vec{L} を求め、保存していることを示せ.

$$\begin{aligned}\vec{L} = \vec{r} \times \vec{P} &= \begin{pmatrix} a \cos \omega t \\ b \sin \omega t \\ 0 \end{pmatrix} \times m\omega \begin{pmatrix} -a \sin \omega t \\ b \cos \omega t \\ 0 \end{pmatrix} \\ &= m\omega \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ (a \cos \omega t)(b \cos \omega t) - (-a \sin \omega t)(b \sin \omega t) \end{pmatrix} \\ &= m\omega ab \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}\end{aligned}$$

この式は時間 t を含んでおらず、保存している。

(2-3) 時刻 t において物体に働く力を求め、中心力であることを示せ.

$$\vec{F} = \frac{d}{dt} \vec{P} = -m\omega^2 \begin{pmatrix} a \cos \omega t \\ b \sin \omega t \\ 0 \end{pmatrix} = -m\omega^2 \vec{r}$$

より、 $-\vec{r}$ の方向を向いており、中心力である。

問題 3 以下の剛体の慣性モーメントを求めよ.

(3-1) 長さ ℓ , 質量 m の棒の、中心を通過して棒に垂直な軸のまわりの慣性モーメント

棒は x 軸の $-\ell/2 \leq x \leq \ell/2$ の部分にあるとし、長さ dx の小部分に分割すると、

$$I = \sum_i m_i r_i^2 = \int_{-\ell/2}^{\ell/2} \left(\frac{dx}{\ell} m \right) x^2 = \left[\frac{m}{3\ell} x^3 \right]_{-\ell/2}^{\ell/2} = \boxed{\frac{1}{12} m \ell^2}$$

(3-2) 半径 a , 質量 m の円盤の、中心を通過して面に垂直な軸のまわりの慣性モーメント

まず、半径 a , 質量 m の細い円環の慣性モーメントは、

$$I = \sum_i m_i r_i^2 = \sum_i m_i a^2 = \left(\sum_i m_i \right) a^2 = m a^2$$

である。

円盤を細い円環に分割してその和をとれば、

$$I = \sum_i I_i = \int_0^a \frac{2\pi r dr}{\pi a^2} m r^2 = \left[\frac{m r^4}{2a^2} \right]_0^a = \boxed{\frac{1}{2} m a^2}$$

(3-3) 半径 a , 質量 m の円盤の、中心を通過して面に平行な軸のまわりの慣性モーメント

円盤は中心を原点とする xy 平面内にあるとし、前問の回転軸を z 軸とする。 x, y, z 軸周りの慣性モーメントを I_x, I_y, I_z とする。求める慣性モーメント I は $I = I_x = I_y$ である。(円柱の対称性より $I_x = I_y$)。 I_z は前問の結果より $I_z = \frac{1}{2}ma^2$ 。 また、

$$I_z = \sum_i m_i(x_i^2 + y_i^2), \quad I_x = \sum_i m_i y_i^2, \quad I_y = \sum_i m_i x_i^2,$$

より、 $I_z = I_x + I_y = 2I_x$ なので、 $I_x = \frac{1}{2}I_z = \boxed{\frac{1}{4}ma^2}$

(3-4) 半径 a 、高さ l 、質量 m の直円柱の、中心を通る軸のまわりの慣性モーメント

円柱の長さを l とする。円柱を薄い円盤に分割してその和をとれば、

$$I = \sum_i I_i = \int_0^l \frac{1}{2} \left(\frac{dz}{l} m \right) a^2 = \boxed{\frac{1}{2}ma^2}$$

問題 4 バネ定数 k のバネの一端に質量 m のおもりを付け、他端を固定する。おもりが机の上を動く際に、速度に比例した摩擦力が働くとし、比例定数を γ とする。

(4-1) おもりの運動を記述するのに適切な座標軸を設定し、運動方程式を立てよ。

バネと平行に x 軸を設定し、バネが自然長（伸びも縮みもないときの長さ）のときのおもりの位置を $x = 0$ とする。バネがおもりに及ぼす力は $-kx$ 、おもりに働く摩擦力は $-\gamma v$ と書けるので、運動方程式は

$$\boxed{m\ddot{x} = -kx - \gamma\dot{x}}$$

となる。

(4-2) おもりにつり合いの位置で初速度 v_0 を与えた時、その後のおもりの運動を決定せよ。ただし、摩擦は十分に小さいとする。

$x(t) = e^{\lambda t}$ を運動方程式に代入すると、

$$m\lambda^2 e^{\lambda t} = -k e^{\lambda t} - \gamma \lambda e^{\lambda t},$$

$$\boxed{m\lambda^2 + \gamma\lambda + k = 0}$$

と、 λ に対する二次方程式が得られる。この2次方程式を解くと、

$$\lambda = \frac{-\gamma \pm \sqrt{\gamma^2 - 4mk}}{2m}$$

となる。摩擦が小さいとき ($\gamma < \sqrt{4mk}$)、ルートの中身 $\gamma^2 - 4mk$ は負となり、 λ は複素数となる。すなわち、

$$\begin{aligned} \lambda &= \frac{-\gamma \pm \sqrt{\gamma^2 - 4mk}}{2m} = \frac{-\gamma \pm i\sqrt{4mk - \gamma^2}}{2m} = -\frac{\gamma}{2m} \pm i\frac{\sqrt{4mk - \gamma^2}}{2m} \\ &= -\frac{\gamma}{2m} \pm i\sqrt{\frac{k}{m} - \left(\frac{\gamma}{2m}\right)^2} \end{aligned}$$

となるので、 $\omega = \sqrt{\frac{k}{m} - \left(\frac{\gamma}{2m}\right)^2}$ とおくと、 $\lambda = -\frac{\gamma}{2m} \pm i\omega$ となり、一般解は

$$\begin{aligned} x(t) &= Ae^{(-\frac{\gamma}{2m} + i\omega)t} + Be^{(-\frac{\gamma}{2m} - i\omega)t} \\ &= Ae^{-\frac{\gamma}{2m}t + i\omega t} + Be^{-\frac{\gamma}{2m}t - i\omega t} \\ &= Ae^{-\frac{\gamma}{2m}t} e^{i\omega t} + Be^{-\frac{\gamma}{2m}t} e^{-i\omega t} \\ &= e^{-\frac{\gamma}{2m}t} (Ae^{i\omega t} + Be^{-i\omega t}) \\ &= e^{-\frac{\gamma}{2m}t} \{A(\cos \omega t + i \sin \omega t) + B(\cos \omega t - i \sin \omega t)\} \\ &= e^{-\frac{\gamma}{2m}t} \{(A+B) \cos \omega t + i(A-B) \sin \omega t\} \\ &= e^{-\frac{\gamma}{2m}t} (C \cos \omega t + D \sin \omega t) \end{aligned}$$

となる。ただし、 $C = A + B$ 、 $D = i(A - B)$ とおいた。

初期条件 $x(0) = 0$ 、 $v(0) = v_0$ から、積分定数 C と D を決定する。
まず、 $x(0) = 0$ より、 $x(0) = C = 0$ を得る。したがって、

$$x(t) = De^{-\frac{\gamma}{2m}t} \sin \omega t$$

を得る。これを微分して、

$$\begin{aligned} v(t) = x'(t) &= D\{(e^{-\frac{\gamma}{2m}t})' \sin \omega t + e^{-\frac{\gamma}{2m}t} (\sin \omega t)'\} \\ &= De^{-\frac{\gamma}{2m}t} (\omega \cos \omega t - \frac{\gamma}{2m} \sin \omega t) \end{aligned}$$

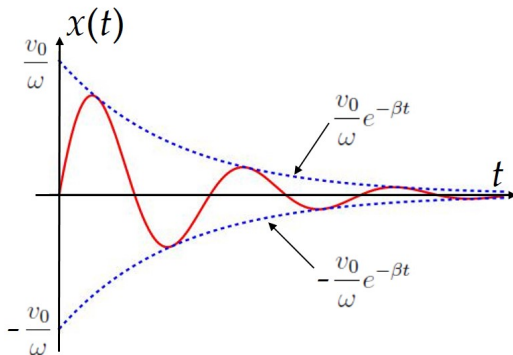
より、 $v_0 = v(0) = D\omega$ なので、 $D = \frac{v_0}{\omega}$ を得る。

したがって、

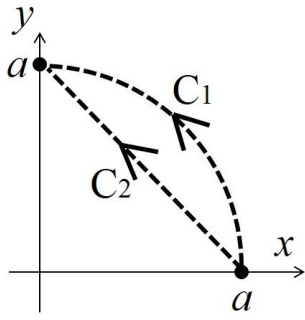
$$x(t) = \frac{v_0}{\omega} e^{-\frac{\gamma}{2m}t} \sin \omega t$$

となる。

(4-3) 横軸を時刻、縦軸をおもりの位置にとって、グラフを描け。



問題 5 xy 平面内に物体があり、場所 (x, y) において物体は力 $\vec{F}(x, y) = -k \begin{pmatrix} y \\ x + a \end{pmatrix}$ を受けるとする。



(5-1) 右図中の経路 C_1 に沿って物体を運ぶのに必要な仕事 W_1 を求めよ. ただし, C_1 は半径 a の円弧を表すとする.

$$\begin{aligned}
 \boxed{C_1} \quad \vec{r} &= a \begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix}, \quad \theta : 0 \rightarrow \frac{\pi}{2}, \quad d\vec{r} = ad\theta \begin{pmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \end{pmatrix} \\
 -\vec{F} &= k \begin{pmatrix} y \\ x+a \end{pmatrix} = ka \begin{pmatrix} \sin \theta \\ 1 + \cos \theta \end{pmatrix}, \\
 -\vec{F} \cdot d\vec{r} &= ka^2 d\theta (\cos \theta + \cos^2 \theta - \sin^2 \theta) = ka^2 (\cos \theta + \cos 2\theta) d\theta, \\
 W_1 &= \int_{C_1} -\vec{F} \cdot d\vec{r} = ka^2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\cos \theta + \cos 2\theta) d\theta = ka^2 \left[\sin \theta + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \boxed{ka^2}
 \end{aligned}$$

(5-2) 右図中の直線経路 C_2 に沿って物体を運ぶのに必要な仕事 W_2 を求めよ.

$$\begin{aligned}
 \boxed{C_2} \quad \vec{r} &= \begin{pmatrix} a \\ 0 \end{pmatrix} + s \left\{ \begin{pmatrix} 0 \\ a \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} a \\ 0 \end{pmatrix} \right\} = a \begin{pmatrix} 1-s \\ s \end{pmatrix}, \quad s : 0 \rightarrow 1, \quad d\vec{r} = ads \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix} \\
 -\vec{F} &= k \begin{pmatrix} y \\ x+a \end{pmatrix} = ka \begin{pmatrix} s \\ 2-s \end{pmatrix}, \\
 -\vec{F} \cdot d\vec{r} &= ka \begin{pmatrix} s \\ 2-s \end{pmatrix} \cdot ads \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix} = 2ka^2(1-s)ds, \\
 W_2 &= \int_{C_2} -\vec{F} \cdot d\vec{r} = 2ka^2 \int_0^1 (1-s)ds = ka^2 [2s - s^2]_0^1 = \boxed{ka^2}
 \end{aligned}$$

(5-3) 原点を基準点として, ポテンシャル $U(x, y)$ を求めよ. (ポテンシャルが存在することは仮定してよい)

基準点 $(0, 0)$ から場所 (x, y) まで運ぶのに必要な仕事 W を求めれば, それがポテンシャル $U(x, y)$ となる. この場合力 $\vec{F}(x, y)$ は保存力なので (証明なしに用いてよい), 仕事は始点と終点だけで決まり, 経路によらない. そこで, 一番計算しやすい経路として, 始点 $(0, 0)$ と終点 (x, y) を結ぶ直線経路 C を選ぶことにする.

$$\begin{aligned}
 \boxed{C} \quad \vec{r} &= s \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}, \quad s : 0 \rightarrow 1, \quad d\vec{r} = ds \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \\
 -\vec{F} &= k \begin{pmatrix} sy \\ sx+a \end{pmatrix}, \\
 -\vec{F} \cdot d\vec{r} &= k\{sxy + y(sx+a)\}ds = ky(2sx+a)ds,
 \end{aligned}$$

$$W_2 = \int_C -\vec{F} \cdot d\vec{r} = ky \int_0^1 (2sx + a) ds = ky [xs^2 + as]_0^1 = ky(x + a)$$

$$U(x, y) = k(x + a)y$$